

日本聖公会

大阪教区報



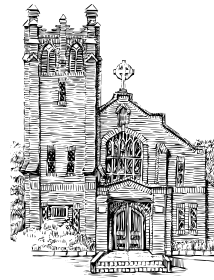
西宮聖ペテロ教会



東豊中聖ミカエル教会



聖ルカ教会



主教座聖堂 川口基督教会

日本聖公会
大阪教区総務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
osakakoho2022@gmail.com
発行責任者
総務局長 司祭 柳 時京

+++++ 第523号 2025年2月20日発行 +++++

おいしいぶどう酒はどこから

主教 アンデレ 磯 晴 久

新しい年が始まりました。2025年、神さまの導きと祝福が、皆様の上に豊かにありますように、お祈り致します。私は、3月31日をもって定年により大阪教区主教を退任致します。同僚教役者はじめ兄弟姉妹皆様の忍耐とお祈りとお支えに、心から感謝申し上げます。

聖餐式の代祷の中で、皆様から幾度「ことにわたしたちの主教アンデレ」とお祈り頂いたことでしょうか。大きな励ましと力添えを頂いたことに感謝致します。

ヨハネによる福音書2…112の御言葉に耳を傾けましょう。有名なカナの婚宴の出来事です。主イエスが幼少期、少年期、青年期を過ごされたガリラヤのナザレから北へ6キロほど行ったところにカナという村があります。ある日、カナで結婚式があり、主イエスの母マリア、主イエ

スと弟子たちも招かれていました。当時ユダヤ人の結婚式は花婿の家で行われ、宴は1週間も続いたと言われます。ところが、おめでたい宴の最中におぶどう酒が足りなくなるという事件が起こります。当時、結婚式の宴でぶどう酒が足りなくなるというのは、花婿にとって大変不名誉なことでした。

そのことを知ったマリアさんが主イエスに、「ぶどう酒がなくなりました。」と言います。すると主イエスは、「婦人よ、私にどんなかわりがありますか。私の時はまだ来ていない。」とお母さんに対して、

そんな冷たい言い方しなくてもいいのではないかと、思いますが、しかし、マリアさんは、主イエスを信頼していたのか、召使いに「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください。」と言います。ちょうどそこに大きな水がめが6個ありました。ユダヤ人

が宗教的な「清め」に使う水を入れる大きな水がめです。しばらくして、主イエスは召使いたちに言います。「水がめに水をいっぱい入れなさい。」召使いたちは言われるまま、かめの縁まで水で満たします。それを宴の世話役の所へ持っていきなさいと言われ、彼らはその通り持つていきます。宴の世話役は水から変えられたぶどう酒の味見をする、なんとおいしいこと。

このぶどう酒がどこからきたのか、水を汲み、運んだ召使たちは知っていましたが、世話役は知りません。水がおいしいぶどう酒に変わっていったのです。

世話役は花婿を呼び「誰でも初めに良いぶどう酒を出し、酔いが回ったら劣つたものを出すものだが、あなたはおいしいぶどう酒を今まで取っておかれた。」と称賛されることになりました。不名誉な立場ではなく、称賛される立場となりました。さて、今日の福音は、何を私たちに語り掛けているのでしょうか。三つのことをお話ししたい。

一つ目は、宴会で、準備不足でしようか、酒飲みが沢山いたのでしょうか、突発的なアクシデントが起こります。私たちの人生のようです。思いもかけないことが起こり、途方にくれること、ありますよね。しかし、神さまの力が発揮される瞬間でもありません。コリントの信徒への手紙Ⅱ12…9以下、パウロさんは主イエスの声を聞きます。「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で発揮される。」そして、パウロさんは「大いに喜んで自分の弱さを誇るう。…わたしは弱い時にこそ強い。」と言います。神さまが力を下さるからです。絶体絶命のピンチの時も、神さまから頂く力に信頼して歩むように、私たちは、今日の奇跡から励まされています。二つ目は、清めの水は、ユダヤ教にとって大切な水です。ここでは古い教えを表わしているのではないのでしょうか。おいしいぶどう酒は、新しい主イエスの教え、福音です。イザヤ書62章1節から5節に、この箇所は私たちが神さまとの関係を結婚にたとえています。神さまから見て、私たちが畏れ多いことですか(次のページ)

(1ページから続く)

が、「望まれるもの」「喜び」である、花婿が花嫁に対して抱く思いと同じに、神さまは私たち一人一人に、望まれるものであり、喜びだと言つて下さっているのです。この神さまの思いを、愛をまつづくに受け取りたいと思います。

三つ目は、この召使いたちの存在です。花婿や花嫁、親族、世話役、宴の客人は知りません。このおいしいぶどう酒がどこから来たのか。下働きの名もない召使いは知っているのです。主イエスから来たおいしいぶどう酒であることとを。

私たちは今、生きています。自分の力で生きていくように思っていますが、実は、名も知らぬ人々の支えによって、生かされているのではないでしょう。か。神さま、主イエスとつながっているのも、私の知らない人々が届けてくださったのではないのでしょうか。

ユダヤの小さな村での出来事ですが、私たちの人生に、信仰生活に大切な栄養を与えてくれる、おいしいぶどう酒にかかわる奇跡の出来事です。主に感謝。

(大阪教区主教)

逝去された教役者をおぼえて

11月15日逝去
ヨシユア 原田光雄 司祭
原田司祭を憶えて

パウロ 太田 潔

原田先生がお亡くなりになりました。昨年11月24日のことでした。69歳という、まだまだ10年は頑張っていたのだきたい年頃でした。

ルシヤ教会は「世の光」を照らすことが役割であるのに、「その光」が暗くなつてしまつたような気持ちでいっぱいになった気がします。順番などあるわけではないのに、なぜ先に行つてしまつたのか？と思わず問いかけてしまふのです。せめて私のお葬



1988年 原田先生の司祭按手式にて

式をしてほしかった...といった個人的な思いもあり、つい愚痴をこぼしてしまいました。

本来、表立って活躍するタイプではなかっただけに、余計に亡くなられた悲しみが深くなりまふ。先生、天国でゆっくりと休んでください！

(聖ルシヤ教会信徒)

11月20日逝去
祖父 司祭、トロ松山龍二のこと
アンデレ 司祭 松山 健作

祖父司祭ペテロ松山龍二が11月20日(水)午前5時44分に息を引き取りました。96歳3ヶ月でした。祖母和子が2022年2月に逝去するまで

自宅にて老々介護をしながら元気に過ごし、その後も体調を崩しながらも一人暮らしをしながら過ごしていました。しかし、春ごろに起こした脳梗塞のため麻痺を患い、食事をとることができず、最終的に近江八幡のヴォーリス記念病院にて数ヶ月入院したのち、息を引き取りました。父

院チャプレンである関西学院

大学神学部先輩や看護師さんに見守られながら過ごすことができました。

私は明治学院大学の講義前に逝去の報を聞きました。祖父龍二は兼ねてから「逝去後自分の仕事に段取りをつけてから現地にきて葬儀をしてくれ」と言っており、また祖母の「和子と同じく」孫である私に通夜・葬送式を家族葬で行う希望でした。日本聖公会

大阪教区の退職司祭であり、またプールの学院のチャプレン・校長を務めたため、教区・OG会の皆様のお祈りと合わせて近江八幡にて、通夜と葬送式および聖餐式を行い、枚方の自宅に帰宅しました。

祖父は1928年8月25日に日本の植民地である朝鮮の龍山に生まれ、南朝鮮で9年間暮らします。その後父の末吉の仕事の関係で現在の北朝鮮清津において9年暮らし、生まれてから18年敗戦までの18年間過ごした在朝日本人です。

外地の日本人として、18年間朝鮮を出ることなく、連絡船にて1945年に引き揚げます。北においては、引き揚げの際にソ連軍に銃を突きつ

けられ、もう命はないと感じたそうです。祖父曰くソ連軍のドイツ兵に逃がされ、パントツの中に1,000円だけを入れて引き揚げることができたそうです。戦後日本では貧しく栄養失調を経験し、朝鮮での裕福な暮らしとのギャップを感じたそうです。朝鮮ではお手伝いさんがいて食べ物には困らなかったようです。

晩年でも、「あなたの家はどこ？」「あなたに惚れた。」あと公共放送では「ピーパー」と入るような北朝鮮訛りの悪口を記憶していました。植民地の日本人でも少しは、朝鮮語ができたのか!?と思う瞬間でもありました。

私は、祖父は祖父としての側面しか知らず、牧師として、教育者としての側面はよくわかりません。1950年代に大阪教区で神学校に入学し、聖職の道を目指していきま

す。現在の桃山学院大学にわずかな期間神学校の機能があつたときに勉学したようです。その後、自分の勉学のために関西学院大学においても聖書学の聴講をするなどしながら大阪教区の司祭となりました。私がおのころついた



松山司祭葬儀画像 家族葬で
孫の松山健作司祭とともに

時には、すでに主日は高槻聖マリヤ教会の会衆席で礼拝に参加していました。教役者が多かった時期なのでしょう。か、司祭としてプール学院の校長を務め、主日の礼拝奉仕はしていません。牧師館の窓は割れ、牧師館の窓は割

れたままなど「牧師夫人」として苦労したことを呟いていたのは、懐かしい思い出です。

プール学院退職後は、定年まで高槻聖マリヤ教会、そして定年後も石橋トマス教会、聖ルシヤ教会、聖ガブリエル教会、大阪聖三一教会において90歳まで礼拝協力をさせていただき、信徒の皆様との交わりをさせていただいたようです。私が大学に入り神学を学ぶようになり、さまざまな話を聞いていましたが、私の方は卓球ばかりの生活で祖父の話はあまり聞いておらず、聖公会の神学生になってようやく真剣に祖父の話に耳を傾けるようになった気がします。

いずれにせよ、勉学をするということにおいては、喜びを持って支援する祖父で、ことに韓国延世大学校大学院博士課程での学位取得は祖父の支援がなければ達成できませんでした。最後まで応援してくれたことは生涯忘れられません。「ありがとう、おじいちゃん」

90歳を超えた祖父は、体は元気でしたが、祖母の介護と耳が遠くなり始め（なぜか祖

母の小さな声は聞こえていたが、愛の力！）、祖母が「もう教会のご奉仕は人様のご迷惑」と言って辞めさせていただきます。いただいたように記憶しています。しかし、それからも教区の伝道や復活信仰の考えについて、歳をとることに「未練がある」というようなことを呟くこともありました。けれども、やはり次第に体が弱り始め、祖母の逝去の後、体調を崩すことが多くなりました。

祖母は「健作、さいつけや。この人、元氣すぎて医者から100まで生きるって言われてるから用心せなあかんで」と遺言のように言っていました。家族も、十分その可能性はあると感じていましたが、祖母の逝去後、次第に元気がなくなり、食も細くなり、みるみると痩せていきました。美味しいものを食べることに、人と食事をすることが好きな人で、よく自宅でも料理を振る舞ってくれました。得意な料理は、なんだったのか。祖母の好きなものを作ることが大好きだったようですが、変わり種としては、「バター焼き」という超高カロリーメニュー

があり、ただただバターで海鮮や肉、野菜を鉄鍋で焼いて食べるというメニューが衝撃的でした。バター焼きが始まると、急に祖父が鍋にバター丸ごと一本を入れるので、よく驚きました！

また祖父は松山高吉（明治訳、大正訳聖書の翻訳者）の孫として、たくさんの資料を引き継いでおり、新島襄とのやりとりや、宣教師グリーン、ブラウン、タッカーなどの資料、同志社での講義録などが残っていました。京都大学（芦名定道研究室）、明治学院大学（キリスト教研究所）の協力のもと高吉の5巻の資料選集が発刊され、4巻まではその発刊を見届けてホッとしたいのだらうと思います。

帰宅後の祈りを終えて、祖父の自宅に戻ってみると、すべての本棚は整理されていましたが、逆にすべての説教ファイル（ABC年）は綺麗にファイリングされて、そのまま本棚に残されていました。「説教集は自分は好きではない」と、説教のライブ感を大切にしている牧師でした。が、捨てられずに遺していったようです。

祖父の意思により家族葬となり、それぞれの場において、皆さんの祈りをしていただき、また慰めの言葉をかけていただいたことに感謝いたします。残された家族は、祖父の生き方に敬意を表し、記念しつつ、今後も公会との交わりを保つことができると願っています。

（京都教区司祭 金沢聖ヨハネ教会牧師）

聖週のご案内

4月17日 聖木曜日

司祭按手の約束の更新・聖油聖別式 11時

4月18日 聖金曜日

主の御苦しみと黙想と陪餐 12時

※ 聖土曜日は各教会でお祈りください。

場所・川口基督教会

11月27日逝去
サムエル坪井克己司祭を憶えて
司祭 施洗者ヨハネ 山本眞

2024年11月27日に92歳で逝去されたサムエル坪井克己司祭は、桃山学院高等学校のチャプレンとして、その教役者としての生涯の多くを過ごされました。学校のチャプレンとしての仕事というのは教会の牧師としての働きとは少し違うところがあり、教会信徒にとっては見えないうところがあるかもしれません。そんなお仕事を30年続けられた坪井司祭でした。

桃山学院高校のチャプレンというのは、毎朝の礼拝と聖書科の授業が中心と思われがちですが、意外と様々なことにチャプレンが顔を出さねばならないことがあるのです。運営委員会、職員会議、教科会議などの会議に加え、学校行事、PTA、修学旅行の付き添い、海外留学の空港への見送りと帰国のお迎えなどなど、それらすべての時にお祈りをもって関わるのです。加えて、生徒が相談にやっけてきますし、教師の相談にものります。

キリスト教主義の学校とはいえ、教師も生徒も、キリスト者はごく少数です。その中で学校全体の牧師として働くのですから、大変だったことでしょう。坪井チャプレンと言えば、あの大きな目でギョロリと見られてすくんでしまうというのではなく、むしろにっこり笑っておいしいものをすすめてくれる先生だったというの、桃山学院の生徒や先生たちの印象だったのでないでしょうか。先生が桃山学院を退職されてから、先生が代表となつて「アンデレ会」という退職教師たちの同窓会ができました。今も続いています。

坪井司祭のお働きを思い出しながら、キリスト教主義学校におけるチャプレンの働きに神様の豊かな祝福とお導きを祈ります。

(大阪教区退職司祭)



新 宣教局長挨拶

教会は「他者」とともに
司祭 フランチェスコ 成岡 宏晃

「教会というところは、多様な考え方を持つ人たちの集まりだから、すべてを一致させることは難しい」という言葉を、よく耳にします。

確かに、教会に集められる人たちは年齢や性的指向、ルーツや信仰に至る経緯など、「違い」を言い出したなら枚挙にいとまがありません。



しかし、一方で教会に集い連なるすべての人たちに共通している「思い」があるとすれば、それはみ子イエスをこの世に遣わされた神と、み子イエスのご生涯、そして聖書のみ言葉への信頼です。

み子イエスに連なる者同士だからこそ、趣味の違いや育歴の違い、文化の違いや言

る文脈で実践する働きが「宣教」です。「宣教 (Mission)」は「使命」とも訳されます。

み子イエスに連なる私たちの使命はさまざまに「違い」を持つ「他者」に心を砕き、祈り、「他者」との出会いを通して与えられる神の声を謙遜に聴き続けることから始まります。

わたしたちは誰の「他者」であり、わたしたちの「他者」はいったい誰なのでしょうか。

(プール学院中学校・高等学校 校チャプレン / 大阪城南キリスト教会牧師)

公 示

日本聖公会大阪教区 教区会議長 主教 アンデレ 磯 晴久

日本聖公会大阪教区第136(臨時)教区会を、下記のように招集します。

記

◆日時 2025年3月16日(日)午後3時より

◆議場 日本聖公会大阪教区主教座聖堂 (川口基督教会) 大阪市西区川口1丁目3番8号

なお、上記教区会の書記を下記のように指名します。

書記 司祭 ヨハネ 古澤 秀利
書記 司祭 フランチェスコ 成岡 宏晃
書記 司祭 アモス 金 頭昇

以上

阪神淡路大震災30周年記念礼拝（1月17日 川口基督教会にて）

記念礼拝メッセージ 語り継ごう

命の尊厳を—垂直的歩みと平面的歩みを生きたる

主教 アンデレ 磯 晴久

今私たちは、阪神淡路大震災30周年の記念礼拝を守っています。「語り継ごう 命の尊厳を」と題してメッセージをさせていただきます。特に、「十字架の形」を見つめ、思いを深めたいと存じます。

上げられています。家屋が破壊され、土地が奪われ、人々が殺され、亡くなり、追放されていく現実を見つめ、心に刻んでおられる思いが伝わって参ります。停戦と平和を祈りたい。

ある集会で、パレスチナ人アブ・シッタさんという方のお話を聞きました。大学の先生で、国連でも働かれた方で、アラブに伝わる詩を紹介された。

阪神淡路大震災30周年で、なぜこの詩を思い出したかといいますが、30年を経て、神戸の街だけではなく、ガレキは整地され、道や高速道路も舗装され、ビルやマンションも建て直され、復興していつています。しかし、今もなお行方不明の方（3人）がおられ、悲しみや苦しみ、心の傷、あるいは体の傷を負っておられる方がいます。

「友よ、前方に広がるこの地を歩む時は、ゆっくり静かに歩こう。足音高く地を鳴らして踏みしめるのではなく、この地の下には多くの人間が眠っているのだ。ある人は苦しみながら、ある人は血を流しながら無念の思いで、眠りについてるのだ。だから、友よ、この地を歩く時は、ゆっくり静かに歩こう。」シッタさんの、停戦のことが大きく取り

目に見える所と、想像力をもつて道を掘り下げると、忘れてはならないものが、埋もれてしまっていることがあると感じ、今日の日は、ゆっくり静かに歩むことが必要ではないかと思ったからです。

さて、1995年1月17日午前5時46分。連休が明けようとしていたその瞬間、地下から巨大な横揺れ・縦揺れが襲って参りました。淡路島北端から阪神間の一帯は数十秒の激しい揺れによって、多くの場所が風景が一変致しました。この川口基督教会も信じられない被害を受けました。西宮聖ペテロ教会、芦屋聖マルコ教会、尼崎聖ステパノ教会、庄内キリスト教会ほか、信徒や関係の皆さまの住宅や仕事場、学校も被害を受けました。

から、阪神間はどんなに凄かったか。しかし、その時、私は神戸を中心に阪神間が大変なことになっていることに気づいてはおりませんでした。最初に電話が入りましたのは、イギリスからでした。巡礼の旅が行われていて聖マタイ教会からも参加していたY姉が、神戸が大変なことになっているとテレビで観たというので、国際電話をくださいました。その後、電話は通じにくくなりました。

い、そこから徒歩で、芦屋聖マルコ教会に向かって歩き出しました。教会に近づいたのですが、近隣の住宅やアパートが倒壊し、道が塞がっており、ガレキの上を踏んで教会に向かいました。そのガレキの下に、犠牲となった方がおられたのではないかとということに、気づくのは後日のことでした。幾度か、ベースキャンプの一つとなった芦屋の教会を訪れるのですが、倒壊したアパートに花が手向けてあったり、ここで亡くなった方があったのかということを知り、踏んで歩いたガレキの下に、被災者・犠牲者がおられたのではないかとということを知りました。

(次のページに続く)

(前ページより続く)

き出しボランティアをするのですが、被災地の様子と何もなかったかの様に日常を取り戻している梅田駅界隈の様子の子のギャップに驚いていたことです。こうしたことをお話しするとときりがなくなりまして、礼拝後の皆様のお話にお任せすることにします。

先ほど、お亡くなりになられた方が6434人。これは正しい言い方ではないと思えます。この1月能登半島地震1年でした。1年の間、金沢市のOさんは、妻はる香さんの実家跡に訪れることができませんでした。地震で土砂が崩れ、はる香さんと3人のお子さん、ご両親を失ったからです。「助けることができなかつた」。こうした大切な方を失う出来事、物語が6434回起こったというのが、正確な表現だと思えます。ケガも家屋の倒壊も、皆同じなのです。

ここで私は十字架を見つめたのです。十字架の縦棒、天国に続く縦棒、神さまに続く縦棒です。行方不明の方のおられる地中深くに続く縦棒です。

死の現場、失われた命を忘れてはならない、記憶に留め

ることが、今生きる命、これから生まれる命を守り、救うことにつながるっていくのです。

そして、祈りです。神さまが、失われた命、傷ついた命を、傷ついた心を抱き、守って下さいと祈ることです。

次は十字架の横棒です。目に見えて復興していく、私たちの力、起き上がりこぼしのように、立ち上がっていく力に目もむけることも大切ですが、今年の標語は「寄り添う」ですが、隣人愛への信頼です。共感の心です。これは次の聖句と歌を思い出します。

喜ぶものと共に喜び、

泣く者と共に泣きなさい。

(ローマの信徒への手紙12…15) 互いに愛し合うことのほかは、誰に対しても借りがあつてはなりません。人を愛する者は律法を全うしているのです。…愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法を全うするのです。

(ローマの信徒への手紙

13…8～10)

臼井 真さん 作詞作曲

1. 地震にも 負けない 強い心をもって

亡くなった方々のぶんも 毎日を 大切に 生きてゆこう

傷ついた神戸を もとの姿にもどそう

支えあう心と 明日への希望を胸に

響きわたれ ぼくたちの歌

生まれ変わる 神戸のまちに 届けたい わたしたちの歌

2. 地震にも 負けない 強い 絆をつくり

亡くなった方々のぶんも 毎日を 大切に 生きてゆこう

傷ついた神戸を もとの姿にもどそう

やさしい春の光のような 未来を夢み

響きわたれ ぼくたちの歌

生まれ変わる 神戸のまちに 届けたい わたしたちの歌

しあわせ 運べるように 届けたい わたしたちの歌

しあわせ 運べるように 先日各地で「はたちのお祝いの会」が開催されました。

神戸でも開催され、成人の代

表が「しあわせ運べるように」を歌うことになりました。一人の青年は躊躇しました。沢山の亡くなった方もあり、今だに苦しんでいる人がいるのに、私のように経験していないものが歌っていいのか。作詞作曲された臼井さんは、どうぞ歌ってください。命の大切さを語り継ぐために、歌ってくださいと言われているそうです。

何とかしてほほえみを、生きる力を届けたいということ、被災地に入り、ボランティアアとして何年も働いた方々、韓国はじめ海外から駆け付けた方、毎朝何時間もかけて被災地に入り、温かい食事を作り続けた方、何万個と言うおにぎりを作り、被災者に贈り続けた方、寄り添いたいと足湯の用意をして、お年寄りの足をやさしくマッサージした方、家族を失い、なぜ自分が生き残ったのか、自分が死んだ方がよかつたと苦しむ子供たちの傷ついた心を支えたカウンセラーの方等々、被災された方の中からもそうした支援者が現れました。震災を知らない人の中からも、今、命を守る仕事についておられる

方が沢山あります。 今日、私たちは十字架の縦棒と横棒を見つめましょう。命の大切さを、いのちのかけがえのなさを語り継ぐものとしての使命をご一緒に確認致しましょう。

父と子と聖霊の御名によって アーメン (大阪教区主教)



キッズフェスティバル 2025

～光の子はどこ？～

開催日 4月29日(火・祝) 10時30分

予定 オープニング(10時 受付)～15時頃 解散

「光の子として歩みなさい」

エフェソの信徒への手紙 5章 8節

場 所 川口基督教会

公 示 (第1報)

救主降生 2025年 1月 1日
日本聖公会大阪教区 教区主教
主教 アンデレ 磯 晴久

下記のとおり、人事異動を発令します。

- 司祭 テモテ 内田 望
3月31日付 芦屋聖マルコ教会管理牧師、(学) 芦屋聖マルコ学園 認定こども園 愛光幼稚園
チャプレンの任を解く。
4月1日付 尼崎聖ステパノ教会管理牧師に任命する。
- 司祭 フランチェスコ 成岡 宏晃
3月31日付 大阪城南キリスト教会牧師の任を解く。プール学院チャプレンの任を解く
4月1日付 芦屋聖マルコ教会牧師に任命する。
(学) 芦屋聖マルコ学園 認定こども園愛光幼稚園チャプレンに任命する
- 司祭 バルナバ 永野 拓也
4月1日付 神戸教区よりプール学院チャプレンへの出向を許可する。大阪教区各教会での主日
礼拝協力を命ずる。

公 示 (第2報)

救主降生2025年 1月27日
日本聖公会大阪教区 教区主教
主教 アンデレ 磯 晴久

- 主教 アンデレ 磯 晴久
3月31日付 大阪教区主教を定年により退職とする。
富田林聖アグネス教会、尼崎聖ステパノ教会、大阪聖三一教会管理牧師の任を解く。
4月1日付 大阪教区内各教会の主日礼拝協力を委嘱する。
- 司祭 ステパノ 柳 時京(継続)
4月1日付 大阪聖ヨハネ教会管理牧師に任命する。
聖ヨハネ学園チャプレンに任命する。
- 司祭 マルチン 韓 相敦(退)
4月1日付 司祭テモテ内田望のもと尼崎聖ステパノ教会(定住)嘱託を命ずる。ただし、法規
53条第2項に基づき、任期は1年とする。
- 司祭 ヤコブ 義平 雅夫(継続)
4月1日付 高槻聖マリヤ教会管理牧師に任命する。
- 司祭 バルナバ 小林 聡
3月31日付 聖贖主教会、大阪聖パウロ教会牧師の任を解く。
博愛社チャプレンの任を解く
4月1日付 聖贖主教会、並びに大阪聖パウロ教会の管理牧師に任命する。
博愛社協力チャプレンに任命する。
定住は博愛社チャプレン宅とする。

司祭 ペテロ 金山 将司

3月31日付 プール学院アシスタント・チャプレンの任を解く。

4月1日付 聖ルシヤ教会、富田林聖アグネス教会の管理牧師に任命する。
博愛社チャプレンに任命する。

司祭 ヨハネ 古澤 秀利

4月1日付 大阪城南キリスト教会、並びに聖ガブリエル教会管理牧師に任命する。

トリストラム学園認定こども園プール幼稚園チャプレン、こひつじ乳児保育園チャプレン、聖公会生野センターチャプレンに任命する。

司祭 ヒューム ユーワン

3月31日付 桃山学院教育大学チャプレンの任を解く

4月1日付 桃山学院大学チャプレンに任命する。
聖ルカ教会管理牧師に任命する。(継続)
東光学園チャプレンに任命する。(継続)
大阪教区英語礼拝担当に任命する。(継続)

司祭 アモス 金 頭昇

3月31日付 大阪聖三一教会副牧師の任を解く。

4月1日付 大阪聖三一教会牧師に任命する。
トリストラム学園認定こども園プール幼稚園チャプレンに任命する。

聖職候補生 ヴェロニカ 薦田 久美子

4月1日付 司祭ステパノ柳時京のもと大阪聖ヨハネ教会勤務(定住)、川口基督教会勤務を命ずる。ヒュームユーワン司祭のもと、大阪教区英語礼拝担当に任命する。

司祭 ウイルソン ウォーレン(退)

4月1日付 大阪教区内教会で主日礼拝協力を委嘱する。
ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする

司祭 ダニエル 山野上 素充(退)

4月1日付 司祭ステパノ柳時京のもと大阪聖ヨハネ教会での主日礼拝の協力を委嘱する。
ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。

司祭 ペテロ 岩城 聰(退)

4月1日付 司祭ペテロ金山将司のもと聖ルシヤ教会、司祭ジョイ千松清美のもと東豊中聖ミカエル教会、司祭ヒュームユーワンのもと堺聖テモテ教会での主日礼拝の協力を委嘱する。
ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。

司祭 ペテロ 竹林 徑一(退)

4月1日付 司祭ステパノ柳時京のもと川口基督教会嘱託(川口基督教会150年誌執筆担当)、司祭ヨハネ古澤秀利のもと聖ガブリエル教会での主日礼拝の協力を委嘱する。
京都教区からの要請を受け、第4主日京都教区内教会において主日礼拝等への協力を許可する。
ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。

司祭 ペテロ 齊藤 壹(退)

4月1日付 司祭アモス金頭昇のもと、大阪聖三一教会、司祭ペテロ金山将司のもと聖ルシヤ教会、司祭ヒュームユーワンのもと聖ルカ教会での主日礼拝の協力、並びに博愛社、聖バルナバ病院、こひつじ乳児保育園チャプレンを委嘱する。
ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。

司祭 ウィリアムス 竹内 信義(退)

4月1日付 司祭ジョイ千松清美のもと東豊中聖ミカエル教会での主日礼拝の協力を委嘱する。
ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする

司祭 施洗者 ヨハネ 山本 眞 (退)

4月1日付 司祭ベテロ金山将司のもと富田林聖アグネス教会、司祭バルナバ小林聡のもと聖蹟主教会、大阪聖パウロ教会の主日礼拝の協力を委嘱する。
ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。

司祭 ヨハネ 木村 幸夫 (退)

4月1日付 司祭バルナバ小林聡のもと大阪聖パウロ教会での主日礼拝の協力を委嘱する。ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。

司祭 テモテ 宮嶋 眞 (京都教区・退)

4月1日付 司祭ヨハネ古澤秀利のもと聖ガブリエル教会主日礼拝の協力を委嘱する。大阪教区各教会での主日礼拝の協力を委嘱する。桃山学院大学において囑託チャプレンに任命する。
ただし、法規53条第2項に基づき、任期は1年とする。

主教 サムエル 大西 修 (退)

4月1日付 中部教区からの要請を受け中部教区内各教会において主日礼拝等の協力を許可する。ただし法規53条第2項に基づき任期は1年とする。

主教按手式告示

公 示

神のおゆるしがあれば、

主教被選者 司祭 バルナバ 小林 聡 師の主教按手式および日本聖公会大阪教区主教就任式を下記のとおり執行いたします。

主にあるみなさま、ことに日本聖公会に属する信徒・聖職の代祷を求めます。

記

日 時：2025年4月12日(土)10:00～

説教者：主教 フランシス 長谷川 清純 師 (東北教区主教)

場 所：日本聖公会大阪教区主教座聖堂 (川口基督教会)

磯主教 感謝会

1. 日時 2025年3月20日(木・祝) 15時～17時
2. 場所 大阪教区主教座聖堂 川口基督教会
3. 内容 15時より、夕の礼拝 (聖堂にて)

礼拝後は磯主教ご夫妻を囲んでの茶話会を予定しています。

2025年度 大阪教区 諸委員一覽 (敬称略)

2025年1月15日、教区常置委員会承認

★教区主教

主教 磯晴久(3月末まで)、主教 小林聡(4月12日より)

★常置委員

司祭 柳時京(長)、司祭 千松清美、司祭 義平雅夫(書記)、寒河江研司(三一)、加納佳世子(アンデレ)、辻彩乃(川口)

★總會代議員

司祭 千松清美、司祭 古澤秀利、寒河江研司(三一)、太田幸彦(ルシヤ)

★会計検査委員

春名英夫(マタイ)、山本多津子(マルコ)

★中日本協働委員

主教 磯晴久(3月末まで)、主教 小林聡(4月12日より)、司祭 柳時京、辻彩乃(川口)

■総務局

局長 司祭 柳時京

☆法制委員会

司祭 松平功(長)、司祭 金山将司、小出裕司(アンデレ)、春名英夫(マタイ)、米満司郎(ミカエル)

☆歴史編集委員会

合男子会長
司祭 成岡宏晃、司祭 古澤秀利、司祭 千松清美、司祭 ヒューム ユーワン、小野田富美子(アンデレ)、寒河江研司(三一)、辻彩乃(トマス) * 陪席: 太田幸彦(教区事務所)

☆社会宣教委員会

司祭 古澤秀利(長)、田中廉(トマス)
社会奉仕部門
司祭 内田望、山本久美(聖愛)、中尾由紀子(マリヤ)、井上るみ子(マルコ)

☆在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会

司祭 古澤秀利(長)、司祭 金山将司、加納佳世子(アンデレ)、眞子義人(三一)、丹田則史(ガブリエル)
* 協力委員: 呉光現(聖公会生涯センター)

☆生涯学習委員会

司祭 千松清美(長)、司祭 金山将司、司祭 ヒューム ユーワン、斎藤みち(トマス)、内海紗英子(川口)

☆礼拝・音楽委員会

小野田富美子(長・アンデレ)、司祭 内田望、司祭 柳時京、聖職候補生 大倉有紀、内海由美子(川口)、辻彩乃(川口)、斎藤みち(トマス)、槻本愛(三一)、高木弘子(ヨハネ)
* 協力委員: 高島幸二(聖愛)

■宣教局

局長 司祭 成岡宏晃

★部会の構成(局長・各委員会の長・教区婦人会長・連

司祭 ヒューム ユーワン、聖職候補生 薦田久美子
☆オンライン宣教委員会
司祭 古澤秀利(長)、司祭 成岡宏晃、槻本愛(三一)、吉井薫(三一)
* 協力委員: 執事 田宮紘

■財政局

局長 寒河江研司(三一)

★財務委員会

寒河江研司(長・三一)、司祭 千松清美、司祭 金山将司、太田幸彦(ルシヤ)、糟谷茂(守口)、名出正(川口)、服部喜代司(トマス)、西原素直(守口)、中尾由紀子(マリヤ)
* 陪席: 総務局長

■諸委員

★聖職試験委員会

司祭 松平功(長 教会史・教理)、司祭 内田望(礼拝)、司祭 奥村貴充(宣教・牧会・法規)、司祭 成岡宏晃(旧約聖書)、司祭 義平雅夫(新約聖書)、鈴木光子(ステパノ)、田尻忠邦(ヨハネ)

★聖職養成委員会

司祭 義平雅夫(長)、司祭 内田望、司祭 千松清美、増山悦子(川口)、井上恵美子(マリヤ)

★牧会支援委員会

豊川雅章(長・聖愛)、久保義道(ミカエル)、篠田

茜(贖主)、早川文子(トマス)、原積寿子(トマス)、松原恵美子(テモテ) * 協力委員: 司祭 千松清美

★事業委員会

規則制定後改編

★主教座聖堂参事会

司祭 柳時京(長)、司祭 内田望、司祭 古澤秀利、鈴木憲二(ステパノ)、小野田芳大(アンデレ)、大塚陽子(川口)、木村治美(トマス)

★教区審判廷審判員(任期4年・2024年の定期教区会終了まで)

主教 磯晴久(長 3月末まで)、主教 小林聡(4月12日より)、司祭 内田望、石田美郎(聖愛)、井上美津(マタイ)、佐野信三(マルコ)、畑野めぐみ(マルコ)、吉岡康博(ミカエル)

★神学生後援会常任理事(任期3年・2025年まで)

主教 磯晴久(長 3月末まで)、主教 小林聡(4月12日より)、司祭 ヒューム ユーワン、司祭 柳時京(総務局長)、寒河江研司(三一)、松本愛子(パウロ)、井上恵美子(マリヤ) 聖職養成委員

★管区連携の担当者

・青年: 司祭 成岡宏晃
・正義と平和: 司祭 古澤秀利

・人権: 司祭 奥村貴充

★災害対策本部担当者

司祭 柳時京(総務局長)、
太田幸彦(教区事務所)

★ビジョンチーム

新主教のもとで再編

■諸団体

★教区婦人会

会長 辻節子(トマス)
チャプレン 司祭 内田望

★連合男子会

会長 寒河江研司(三二)
チャプレン 司祭 義平雅夫

★教区GFS

(三二)
会長 岡墻敬子
チャプレン 司祭 千松清美

★教役者会幹事

司祭 内田望、司祭 松平功

★聖公会生野センター大阪教区後援会常任委員

主教 磯晴久(長 3月末まで)、主教 小林聡(4月12日より)、鈴木憲二(ステパノ)、丹田則史(ガブリエル)、服部喜代司(トマス)、松原恵美子(テモテ)、呉光現(総主事)

★大阪キリスト教連合会

代議員
主教 磯晴久(代表 3月末まで)、主教 小林聡(4月12日より)、司祭 成岡宏晃、小出裕司(アンデレ)

★大宗連

主教 磯晴久、司祭 柳時京(総務局長)

【常】置【委】員【会】報【告】

11/23第11回

- ・磯主教より常置委員長に柳司祭が指名された。
- ・第2回委員会を12/3に開催することを決めた。

12/3第2回(定例)

I. 諸報告および議事

- ・主教より、教役者・聖職候補生・神学生の動静、12月～1月の主教予定および礼拝・行事予定について報告を受けた。
- ・三局および諸委員会・教会の報告を受けた。また聖贖聖パウロ教会の今後について報告があり共有した。
- ・主教より、2025年度諸委員会および構成委員の原案の提示を受けた。
- ・信徒奉事者推薦と認可に係る手続きと日程を確認した。
- ・教役者人事について主教から原案の説明を受けた。
- ・新主教接手・就任式および磯主教への感謝会(2025年3月20日)について意見交換した。
- ・中日本協働委員会の報告を受け、次回委員会には柳司

祭・辻委員・小林司祭が出席することとした。

- ・阪神淡路大震災30周年記念礼拝を川口基督教会において教区の主催で行うこととし、一部を記念礼拝、二部を関係者の証しの時間とすることとした。
- ・11月の会計報告を受け、了承した。

II. その他

- ・大阪教区規則第4条について、すでに教区会および管区総会に置いて改訂が承認されている変更について、変更登記の手続きを進めることを承認した。
- ・事業委員会が取り扱う外部業者との協議(ことに契約書の取り交わしが必要な案件)については、新年度の事業委員会の構成員が選任され委員会規則が整ってから行うこととした。
- ・主教から諮問のあった聖職候補生志願者の面接を行った。
- ・1月から3月の常置委員会を下記の通り開くこととした。

1月15日、2月13日、3月13日。

【局】長【会】議【報】告

12/28第11回

- 【宣教局】
 - * 主教接手式のための聖歌隊編成について礼拝・音楽委員会へ依頼
- 【財政局】
 - * 主教接手式のための予算立てを進める
- 【総務局】
 - * 日程の確認
 - 1月17日(金)14時・阪神淡路大震災30周年記念礼拝於 主教座聖堂
 - 2月24日 中日本宣教協働区委員会(横浜教区聖アンデレ教会)
 - 4月11日(金)18時・主教会・レセプション 於 NCBホテル(1/23に確定)
 - 4月12日(土)10時・大阪教区主教接手式 於 主教座聖堂
 - 11月30日(日)11時・大阪教区礼拝 於 プール学院清心館

* 教会間協働について今後のスケジュールを検討

1/23第11回

【宣教局】

- * 大阪教区の公式LINEアカウントの試用を検討中

【財政局】

- * 決算案を作成中

【総務局】

- * 主教接手式の役割分担についての確認
- * 接手式後の祝会・昼食は簡素に行う(持ち帰り可のお弁当)
- * 事業委員会の「規定」を法制委員会と協力して作成し、専門家への協力要請を検討

【協議事項】

- * 日程の確認
 - 2月13日(木)14時・第1回主教接手式準備委員会 於 教区館
 - 4月29日(火・休)10時・キッズフェスティバル 於 主教座聖堂
- * 主教接手式の案内状・招待状の送付先について海外からは大韓聖公会3教区、台湾聖公会、ブラジル聖公会、サンパウロ教区の代表の方

大阪教区関係教役者レクイエム

毎月第2水曜日 川口基督教会
3月12日(水) 10:30~



教話：ヤコブ 義平 雅夫

- 1日 執事 ペテロ 井上 榮 (1966)
3日 司祭 フレッド・ケトルウエル (1952英)
7日 主教 アブラハム 植松 従爾 (2017)
8日 主教 ヤコブ 宇野 徹 (2022)
10日 伝道師 南 民子 (1961)
15日 司祭 山崎 貞一 (1951)
16日 伝道師 イサク 宗像 和雄 (2013)
17日 宣教師 フローレンス・エリザベス・ガーディナー (1970英)
20日 宣教師 リーラ・ブル (1924米)
21日 主教 ヒュー・ジェームズ・フォス (1932英)
22日 司祭 オリヴァー・ヘイワード・ナイト (1969英)
23日 伝道師 ハンナ 田中 花子 (1983)
24日 宣教師 メアリー・ダブルデイ・ウッド (1891英)
26日 司祭 ステパノ 東海林 定一 (1993)
28日 司祭 伊藤 堅逸 (1967)

4月9日(水) 10:30~

説教者：岩城 聡 司祭

- 1日 執事 中西 義之 (1909)
4日 主教 ジョン・マキム (1936米)
6日 司祭 ミカエル 村岡 明 (2019)
7日 司祭 ジョージ・ウィリアム・ローリングス (1933英)
15日 伝道師 織間 小太郎 (1934)
17日 司祭 パウロ 藤倉 恒雄 (2001)
20日 宣教師 メアリー・ジェーン・オクスラッド (1922英)
21日 宣教師 エレノア・メアリー・フォス (2002英)
23日 司祭 早川 喜四郎 (1943)
28日 主教 ジョン・チャールズ・マン (1967英)

局長会議報告(続き)

をお招きする

*レセプション等をNCBホテルに発注することを決定
*按手式のために川口基督教会のオルガン調律4月分を教区特別財産特定保守引当金より充当
*教役者の講壇交換について6月~7月の期間での実施を予定
*神学生を囲む集について3月中の実施を目指して主教と聖職養成委員会が神学生とともに準備中

*教会間協働について今後のビジョンを共有

*中日本宣教協働区内の交流について、教会レベル・信徒レベルでの交流を検討する

*大阪教区事務所の会議室使用などについて管理システムの導入を検討する

洗礼

川口基督教会 (12月12日)
ルカ 今井 悠

初 陪 餐

大阪城南キリスト教会 (12月25日)
テイモシー 趙 学勇

堅 信

川口基督教会 (1月5日)
マーガレット 内海 一花
セシリア 高橋 紬

大阪城南キリスト教会 (12月25日)

テイモシー 趙 学勇
エステル 松廣 陽菜

逝 去 者

エステル 松廣 陽菜

尼崎聖ステパノ教会

大阪聖ヨハネ教会 (11月18日)
森 英雄 (93歳)

聖ルシヤ教会 (1月4日)
103歳

ステパノ 太田 謙 (1月12日)
88歳

魂の平安をお祈りします

お詫びと訂正

12月号にて次の逝去者が抜けておりました。
12月17日宣教師エミリー・ビショップ・ボウルトン(1926英)、22日司祭近重利澄(1934)
○前号6ページ
(誤)久保道則(2011)↓
(正)久保道則(2012)

お詫びし訂正させていただきます。